

Q：「昔の暮らし」の単元で、実際に「昔の道具」を紹介し、体験させたいのですが、近くに博物館がなく、家庭や地域に呼びかけても昔の道具が集まりませんでした。やはり実物を見せ、体験させたいのですが何かよい方法はないでしょうか。

A：社会科見学に博物館の学習を組み入れたり、博物館に昔の道具の貸出しを依頼し、実際に体験させたりする方法があります。

地域によっては近くに博物館や郷土資料館がない。新興住宅地などで昔の道具や資料を保有している家がないことなどがあります。そこで、次の2点の活動が考えられます。

①年間行事に組み入れて、昔の道具を保有している博物館の見学を行う。

近隣の県立博物館・市立博物館・郷土資料館など、昔の道具を所有している施設があります。事前に打合せを行うことで、学芸員からの説明を受けることができたり、実際の道具に触れたりすることができる施設もあります。

その際、ただ、体験させるだけでなく、見学に行く前に学習のめあてにあった動機付けを必ず行う必要があります。

②博物館によっては、「昔の道具」の貸出しサービスを行っている所があります。

県内の博物館では、実際の体験キットを無料で貸し出しています。内容も希望によって変更ができます。また、依頼次第で出前授業を行ってもらえます。積極的に利用してみてください。

<施設の紹介>

千葉県立中央博物館 http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=58

○「古い道具と昔の暮らし」体験キットの貸出し

【内容】50～80年ほど前に生活に使われていた、昔の道具をセットで貸し出してくれます。下駄やわらじを履いたり、有線放送電話に触ったり、ベーゴマやメンコ、お手玉や羽子板など、昔の遊び道具もあります。道具はすべて自由に体験できます。キット内容については相談ができます。

○出前授業

博物館の学芸員が学校に訪問し、収蔵資料等を活用しながら教育活動の支援を行います。先生方と学習内容などを協議して実施します。「古い道具とむかしの暮らし」では、道具を見るだけでなく、実際に触れ、使ってみることも取り入れます。

○デジタルミュージアム <http://www.chiba-muse.or.jp/OTONE/dougu/list.html>

昔の道具について「はたらく」「たべる」「すむ」「あそぶ」の4つのカテゴリーに分けて、実際の写真・使い方・教師向けの解説など137点の道具について掲載されています。

※この他、「昔の道具」については、常設展示も行われ、見学もできます。